

【所属名 市民部福祉事務所】

【会議名 糸魚川市介護保険運営協議会】

日	令和5年7月13日(木)	時間	13:30~15:30	場所	糸魚川市民会館 3階会議室
件名	令和5年度 第1回 糸魚川市介護保険運営協議会 (糸魚川市地域包括支援センター運営協議会・糸魚川市地域密着型サービス運営委員会)				
出席者	<p>【委員】出席委員11人 田原秀夫委員(会長)、金子裕美子委員(副会長)、中倉幸博委員、比護山之助委員、 広幡隆子委員、古川昇委員、松澤しのぶ委員、渡辺二三夫委員、渡邊和紀委員 オンライン出席：安藤隆夫委員、竹内博文委員 (欠席委員：池田正夫委員、谷口修委員、山本明子委員、多田松樹委員)</p> <p>【事務局】6人 市民部：小林部長 福祉事務所：磯貝所長、渡辺次長 介護保険係：陶山次長 地域包括ケア係：山岸次長、加藤主査</p> <p>【地域包括支援センター職員】5人</p> <p style="text-align: right;">※傍聴者なし</p>				

会議要旨

1	開会(13:30)
2	市民部長あいさつ
3	報告・協議事項
(1)	全体に係る事項
①	担当職員について(資料No.1)
(2)	糸魚川市介護保険運営協議会
①	第9期介護保険事業計画の策定スケジュールについて(資料No.2) (質疑なし)
②	第9期に向けたアンケート調査について(資料No.3-1、3-2、3-3)
委員	アンケート調査結果の分析について、今回の資料ではパーセンテージが増えた或いは減ったというところまでで、そこから導き出される分析はこれからということでしょうか。
事務局	クロス集計等の詳細な分析を計画策定支援業務の事業者に委託しておりますので、そちらの結果を見て次回又は次々回、お示ししたいと考えております。

- 委員 今回、アンケートを取られた中から顕著なところを資料にされたと理解していますが、その分析等もお聞きしないと結果を見てすぐ検討しなくてはいけなくなりますので、予め送っていただければと思います。今回、資料提出された内容については、お聞きしてよろしいですか。
- 事務局 今回の資料の内容については委員からご意見いただきたいと思ひますし、詳細なアンケート結果については、次回以降ご意見いただきたいと考えております。
- 委員 1番目の「介護が必要になったときに希望する住まい方」の設問で、サービスを受けながら自宅に住みたいという方の割合が減っています。糸魚川市は、在宅介護の推進を重点に挙げてやってきましたが、減少の原因に何かあるのか。一人暮らしや高齢夫婦のみ、或いは子供さんが遠くで暮らしているというような事情があると思ひますが、割合が大きく減っている点を福祉事務所はどのようにお考えですか。
- 事務局 この調査は認定を受けていない方を対象にしたアンケートで、もう一方の在宅介護実態調査は認定を受けている方でご自宅にお住まいの方を対象にしたアンケートです。2つのアンケートで結果が逆になっていますが、単身又は夫婦のみ世帯が増えている状況のなかで、自分がある程度元気なうちに施設での住まいをお考えの方が多いのかなと思ひますし、実際に介護認定を受けている方については、在宅サービスを利用しながら自宅で生活できているものと考えております。
- 委員 このアンケートの対象は元気な高齢者と位置付けられるかと思ひますが、在宅介護で頑張れるだけ頑張ろうという考え方が市民にも浸透してきた。施設を増やしてほしいというのが過去の例であった訳ですが、2,000通出して74.6%という高い回答率のなかで、多くの方が在宅での介護ということを真剣に考え回答されたのは、市民に対して在宅介護がだんだんと浸透してきた結果と受けとめてよろしいですか。
- 事務局 委員ご指摘のとおり在宅介護が浸透してきているものと考えています。また、今後クロス集計をするなかでは、施設に住みたいという方が、単身や高齢者のみ世帯が多いのかという分析もできますし、例えば、趣味のある無しで施設に住みたいという方の割合がどう変わるのかなど、どのような条件の人が自宅に住みたいと思ひ、どのような条件の人が施設に住みたいと思っているのかというところをさらに分析し、施策につなげていくことができると考えております。
- 委員 趣味・生きがいの設問について「思いつかない」と回答した人が増えていますが、趣味や生きがいとなると、高齢の方は野菜を作ったり、65歳くらいであれば、農業でいえば現役バリバリの方もいらっしゃる。そうすると生きがいと言われて何を想像して回答されたのか、細かく農業だとか野菜づくりだとか畑であるとか、そういうものも含めて設問されたのですか。単に、趣味や生きがいと言われてもなかなか答えるのは難しいかなと思ひるので、どのような設問の仕方をされたのかお聞かせください。

事務局 こちらの設問と回答肢は、国から全国同じ形で示されており、生きがいとはこういうことを示しますという説明は特になく、単に趣味はあるか、生きがいはあるかという聞き方になっています。趣味や生きがいの有り無しの背景にどのような要因があるのか、例えば、地域活動を企画・参加しているかという設問とクロス集計もできますので、今後分析していきたいと考えています。

委員 国で示していることであれば仕方のないことかもしれませんが、実際には皆さん一生懸命やっていることは必ずあるはずなんですよね。そういうことが出来なくなると、介護認定やその予備軍になってしまうという状況も考えると、糸魚川市独自で注釈なども加えて聞かれてもいいかと思います。そうしないと、十分な集計が取れない弊害もありますし、クロス集計してもしょうがないので、今後配慮いただければと思います。

事務局 クロス集計等の分析を計画策定支援業務の事業者へ委託していますので、そちらの結果を見て次回又は次々回、お示ししたいと考えております。

委員 在宅介護実態調査の介護サービスを利用していない理由のなかで、「サービスを利用するほどの状態ではない」「本人にサービス利用希望がない」と書かれています。この方たちの介護度は把握されていますか。

事務局 まだ、細かい分析ができていませんので、今ここではお答えすることができません。

委員 そのあたりの分析が加わると、どのような方たちが回答されていて、どのような介護度でどういったご家族の方がどうお考えになっているのかがわかるかと思えます。施設に入所されている方は除かれているということですが、介護度の高い方もご自宅にいらっしゃると思うので、そういったことがわかると、サービスを利用しない理由ですとか介護保険サービスの満足度、どういったところに不満があるのかというところが明確になると思えますので、次回お願いいたします。

会長 できれば次回の会議資料を送る前にアンケートのクロス集計、或いはもう少し詳細な結果を委員の皆さんに届けていただければ、もう少し審議が進むかと思えますので、委託業者とスケジュール調整をしてください。

③ 介護保険の運営状況及び計画値との比較について（資料 No. 4-1、4-2）

委員 介護が必要になった原因が「骨折・転倒」のところで、目標値が22%で実績値が26.5%ということは、介護が必要になった原因が目標値より増えているということになり良い結果ではないと捉えています。120%という数字を出されると、目標値を上回って良い結果が出たような捉え方をしてしまうので、わかりやすい表し方をしてほしいと思います。

事務局 今回の資料では、単純に実績値を計画値で割り算した値で統一させていただきましたが、次回、令和5年度については見込値を入れたうえで、A・B・C等の達成基準を定めたいと思います。

④ 介護保険事業所の指定及び休止について（資料 No. 5）

委員 訪問看護をやめて障害デイサービスに切り替えるという説明でした。訪問看護をずっとお使いになられていた方にも事情を話して、他の事業所に引き継がれていると思いますが、さらっと報告を受けるとそんなに簡単に換えられるのかという疑問もあります。どんな感じなのですか。

事務局 事業所の切り替えと言うより、別々の指定になりますので、障害サービスを始めるにあたっては新たに指定を受け、介護の方は指定を受けているけども一時休止するということになります。介護の利用者と障害の利用者とで同じ方はいらっしゃると思いますが、今年度入ってから訪問介護の利用者を1人程度まで減らしているということで、早い段階から利用者に説明をしながらスムーズに他の事業所に移行できるよう進めておられます。先ほど説明申し上げた通り、介護の事業は令和11年まで指定期間がありますので、私ども介護の立場からすれば、なるべく早く介護サービスの方でお力を賜りたいと考えています。

委員 説明にはありませんでしたが、従業員が減っているということが理由になっていることはないでしょうか。従業員が減ったために、事業の転換に追い込まれてしまったのではという心配はありませんか。

事務局 今いらっしゃる看護師さんで障害の方を始めるということですので、障害の方の事業がどれくらい需要があるかわからないなかで、障害の事業に全部職員が取られてしまうと、なかなか介護の方を再開するのも難しいこともあるかと思います。いずれにしても障害の事業を続けながら、介護の事業も看護師を確保いただくなかで再開していきたいと聞いていますし、私どももそれを願っています。

委員 我が家は、実はこのスマイルさんをずっと利用していたうちの1件で、もうじき99歳になる母がお世話になっていました。私も事業所を休止するという話をお聞きした時に、母を看取るまでお世話になるつもりでしたのにショックだわと思わず言葉が出てしまいました。長く馴染んだ関係でしたので、最期の看取りまでつき合っただけで欲しかったというのが本音でしたが、引き継ぎもスムーズでしたし、新しい訪問看護師さんも良くしてくださいませ。

実は、昨日今日と富山で研修会があり、その中で富山のデイサービスで、今まで認知症の人を多く受け入れてきたサービスが、障害者の受け入れに軸足が動いているそうです。何故そうなったかということ、障害事業の方が報酬単価が高く、事業所の運営を考えると障害者の方に軸足を置いた方が運営が楽になるという情報を耳にし、スマイルさんもそういう事情かわかりませんが、障害のある方をお持ちのご家庭はたくさんあると思うので、そちらの方で頑張ってくださいと思います。富山のデイサービスが、障害者に特化した方に流れているという情報を聞いて話をさせていただきました。

会長 介護サービスの方は廃止でなく休止という説明でしたが、放課後等デイサービスに移行した場合、介護運営協議会に指定の報告はありますか。

事務局 介護保険の事業ではないので、特に報告は予定していません。

(3) 糸魚川市地域包括支援センター運営協議会

① 地域包括支援センターの事業について（資料 No. 6-1、6-2）

委員 地域包括支援センターおうみさんの事業に関して、コロナ禍において十分に対策をとられて、あったカフェをやってこられたかと思いますが、地区公民館等でおやりになって、参加される方はコロナの前と比べて、集まり具合はどれくらいですか。

包括おうみ 青海地域でのあったカフェは、概ね 16 支館を対象に開催しています。昨年度・一昨年度は、コロナの影響もありましたが、老人クラブに声掛けをして、参加者が少ないこともなく通常通り開催できていたと思います。今年度も 4 月から開催していますが、昨年度に比べるとまた参加者が増えてきています。各公民館に出向いて行うという形ですので、集まる方の足の問題が解決できて参加の増に繋がっているものと考えています。

委員 コロナでも減少することなく人数が集まっているというお話でしたが、あったカフェで皆さんが喜んでおいでになるような企画というのは、どのようなことをやっていますか。

包括おうみ 当法人では、包括支援センターの職員だけでなく、デイサービスセンターの職員や特養ふくがくちの里の職員とも協力しながら、それぞれの事業所で行っているレクリエーションをしたり、今年度においては、市のスポーツ推進員からもお越しいただいて高齢者の体操や運動を重点的に取り入れ、フレイル予防に繋げていければと考えています。

委員 今言われたフレイルについて、これから普及や啓発を行っていくところかと思いますが、青海ではフレイルという新たな取り組みが入ってきても違和感なく、参加される皆さんに繋げていけるということでしょうか。

包括おうみ 今年度の目標でもあり、今年度はフレイルに力を入れていきたいということで、市のスポーツ推進員とも色々と企画を練りながら、あったカフェを開催していますので、これが全公民館に普及できれば、かなりの住民にフレイルが普及・啓発できるものと考えています。

委員 その他の地域では、立ち上げがうまくいっているところ、今年度重点的に取り組むところというように先ほど説明されましたが、各地域のこれまでの活動にどのようにフレイルを絡めて、地域のサロンのような場を構築しようとしているのかお聞かせいただきたいと思います。

能生包括 市のフレイル予防教室の際に、保健師が同行で出席し同じ視点で活動できるようにしていますし、その保健師が今度は、地区のサロン等にも参加して、フレイル予防の視点から話をするなど普及や啓発に努めています。

包括みやま みやまの里も基本的には、市のフレイル予防教室に参加するようにしています。今まで公民館単位が多かったのですが、昨年度は公民館とは別の団体にもフレイル予防教室に入っています。うちの担当地域で力を入れたいのが糸魚川地区公民館エリアで、新鉄・一の宮・上刈になります。上刈は、もともと集まりに呼んでいただいていますし、一の宮も婦人会からお誘いがあってフレイル予防教室をやっていますので、今年度は新鉄でやるように働きか

けをしていきたいと思っています。

糸病包括

上早川・下早川・浦本・大和川の地区公民館でフレイル教室がある時は、市の保健師と一緒に包括支援センターの職員も参加していますし、それ以外の小さいところの公民館・会館などでも老人クラブやサロンが開催される中で、職員が出向いてフレイル予防のお話をさせていただいています。地域からご要望があれば、糸魚川総合病院のリハビリスタッフと一緒に行って、こんな体操すると、ご自宅で1人でもできる体操でフレイル予防になりますということも紹介させていただいています。

包括よしだ

前年度から地区活動の中で、保健師がフレイルを中心にした活動をしていますし、同じ法人のケアポートよしだとも協力して老人クラブやサロンに参加し、作業療法士がフレイル予防の話をしたり、運動等の指導をしています。あと、どうしても見落とされがちなオーラルフレイルにも重点を置いていて、マスクを外して皆さんでやりましょうというところまでできないのですが、まずは見ていただくということで指導する方がマスクを外して、口の体操の指導をしています。フレイルという言葉が難しく考えずに自らの健康づくりという感覚で活動しています。

委 員

各地域包括支援センターの活動が、第二層の取り組みとあわせて、かなり具体化されてきたという感じもします。市の基幹型包括支援センターの大きな目標の一つに、各地域包括支援センターの下支えということがあったかと思いますが、今お聞きになったこともふまえ、これからの市の取り組み方として、まとめたところがあればお聞かせください。

事 務 局

フレイル予防教室の組み立て自体は基幹型包括支援センターでやっています。地域の実情がそれぞれ違いますので、実情により合わせた形で各地域包括支援センターの方でアレンジしていただくような形で取り組んでいければと思います。

② 指定介護予防支援業務の委託について（資料 No. 7）

（質疑なし）

（4）糸魚川市地域密着型サービス運営委員会

① 介護保険事業所の廃止について（資料 No. 8）

委 員

認知症対応型通所介護は、確か青海だけだったかと思いますが、廃止となると糸魚川市では、認知症対応型通所介護の事業所はなくなるということになりますか。

事 務 局

今回の廃止により、認知症対応型通所介護はなくなります。

委 員

職員配置が難しくなり対応ができないという説明があり、認知症対応型のデイを利用している方は、普通のデイサービスへ移行されたということですが、ご家族から不満とか苦情みたいなものは上がっていませんか。

事 務 局

現時点では、そういったお話は聞いておりませんが、廃止の届け出があった時点で22名の方がご利用されていたということで、今後も事業所の方からその後の状況についてお聞きしたいと思っています。

また、補足になりますが通常のデイサービスの方で受け入れ移行していた中で、認知症の方は環境の変化等に敏感というようなこともありますので、初めのうちは活動されるエリアを分けるなど事業所の方で工夫すると聞いていますし、包括支援センターの方にもそういう話は来ていないとのことですので、スムーズに移行していただいていると認識しています。

委員 私たちが認知症対応型のデイサービスに期待するのは、1人の利用者さんに対して手厚い介護をしていただけるということです。これだけ認知症の人が増えているなかで、こちらの方から廃止していくのかという複雑な思いです。確か利用料は認知症対応の方が単価が高いと思いますが、それでも通常型の方に吸収してでもやっていかざるをえない、それだけ人員が少なくなっていると捉えるしかないのでしょうか。人材の確保については、だいぶ前から課題がある中で、ここ数年この会議に出席させていただく間にも、認知症の人にとってすごくいいサービスが、どんどん無くなっています。例えば、小規模多機能型サービスは通常のデイからショートステイを利用するときも同じ環境で馴染みの人とケアを受けられることで非常に抵抗感が少なく、認知症の人にとって、すごく大事なサービスでしたが残念ながら撤退されて、今度この認知症対応のデイサービスも無くなると、時代の流れと逆行して、認知症の人に手厚い介護をしていただけなくなるという複雑な思いです。

それぞれの事業所のご事情もあるのですが、少し違うんだよねというもやもやした気持ち、上手く表現できませんが現状と逆行する現実と次の第9期の介護計画がどんなふうになったら私たちが安心して暮らせるのか不安な思いが残りましたので、お伝えさせていただきました。

会長 今回の事業所の廃止について、その後の状況も、事務局で調べていただいて次回以降、報告していただければと思います。

委員 今回の関連で、認知症の方は今後増える傾向にあるというのは、糸魚川市も同じことかと思えます。そういう状況のなかで、認知症の方々のための通所サービスや小規模多機能型が無くなっていき、できれば復活してもらいたいと思いますが、事業所が減ってく、或いは無くなっていくという傾向を福祉事務所としてどのように受けとめているのかお聞かせください。

事務局 認知症の方が利用できるサービスが先細りしている現状は、他の介護サービスも含め、当然のことながら好ましい状況ではないと思います。今ほど認知症デイサービスについて、手厚い介護を受けられるということがありましたが、やはり人員配置上は運営する方としては厳しくなるということもあります。そうした中でも、寺町にあった小規模多機能については、グループホームとして認知症の方からもご利用いただけるサービスとして維持していただいていますし、今回のデイサービス青海も通常型通所介護も含め、利用者が減少傾向にあるなかで、認知症型のサービスを通常型に引き継ぎすることで、最大限サービス水準を維持していくということで、法人がご判断されたものと思います。

介護人材確保が年々厳しくなるなか、各法人で最大限、サービスの維持に努めていただいていますし、市の方でも人材確保という面で支援できる部分を引き続き実施していきたいと考えています。

委員 医療もそうですが、市民が安心してサービスを受けられるという根底があって市民生活が成り立つわけです。そういう意味では、高齢者の方々が一番安心するとすれば、そういう施設やサービスが確保されて初めて生活が成り立つのであり、自宅で頑張ってみようと思うわけです。だとすればやはり市とすれば、こういう状況が出てきたら非常に残念だという認識をしていただいて、これに代わる或いは同等のものを積極的に誘致したり、手を挙げてもらう努力を重ねていくということを表明していただきたいと思ったのですが、ぜひ9期に向けて力を発揮していただきたいと思います。

会長 委員から感想又は要望という形でご意見がありました。市としても受け止めていただければと思いますし、先ほどから包括支援センターと市から説明のあったフレイル予防と地域での見守り、そして施設の充実・拡充という幾つもの施策のバランスを取りながら、安心安全な福祉サービスに繋げていけるものと思います。

(5) 意見交換

委員 毎年、春過ぎに介護事業所のアンケート取っていたかと思いますが、結果が出ていたら資料をいただけますか。

事務局 毎年、人員に関するアンケートを実施しており、今年度は現在実施中ですので、結果がまとまり次第、本協議会に参考資料として提出いたします。

4 その他（次回日程）

（第2回を8月31日に予定）

5 閉会